

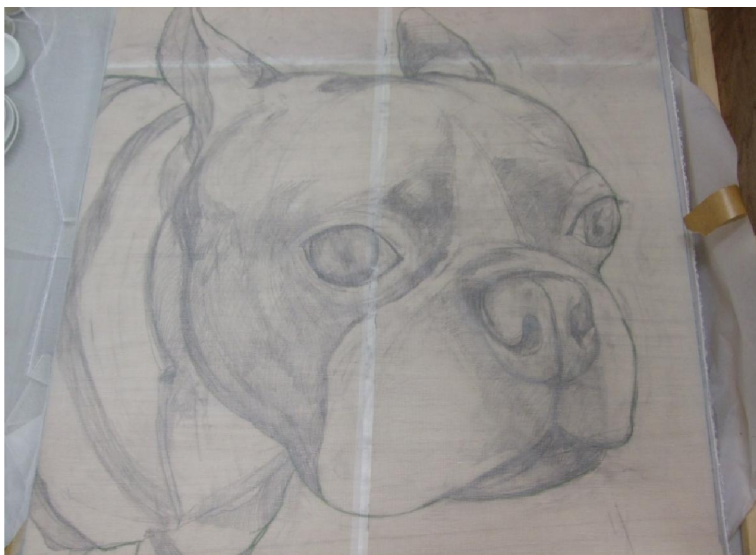
制作プロセス

作例《夏の気配》

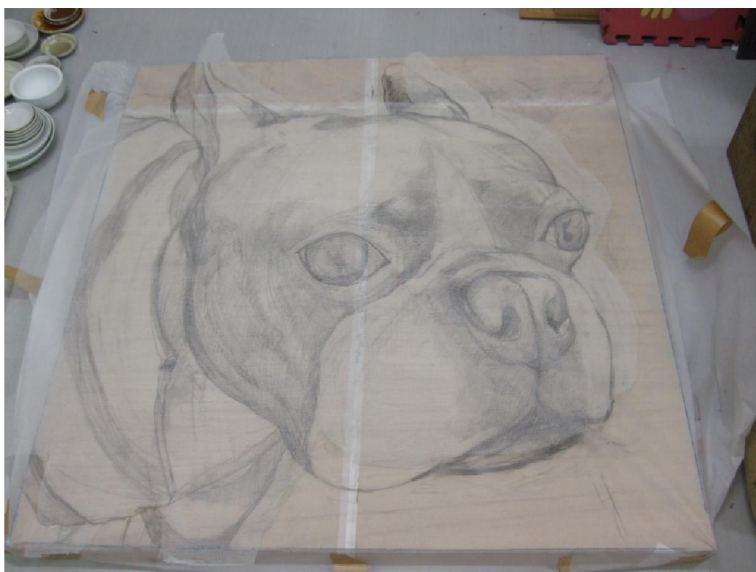
(筆者作 2010年 S50号 寒冷紗・パネル・麻紙・岩絵具・水干絵具)

《夏の気配》は、寒冷紗と麻紙を併用し、これまで背景にのみ使用していた麻紙を、服として画面に貼り込み、立体感と質感の差を意識した表現を試みています。また寒冷紗の網目を活かす部分と、紙の風合いを活かす部分をはっきりとわけ表現したことも特徴の一つです。

I. 下図制作



II. 犬の輪郭に合わせて寒冷紗を裁断する。



- Ⅲ. 大下図をパネルに転写する。背景にのみ麻紙を貼るためにパネル自体に転写を施す必要がある。また下図の段階から余白を活かすことを考慮しながら構図を検討するよう心がけた。



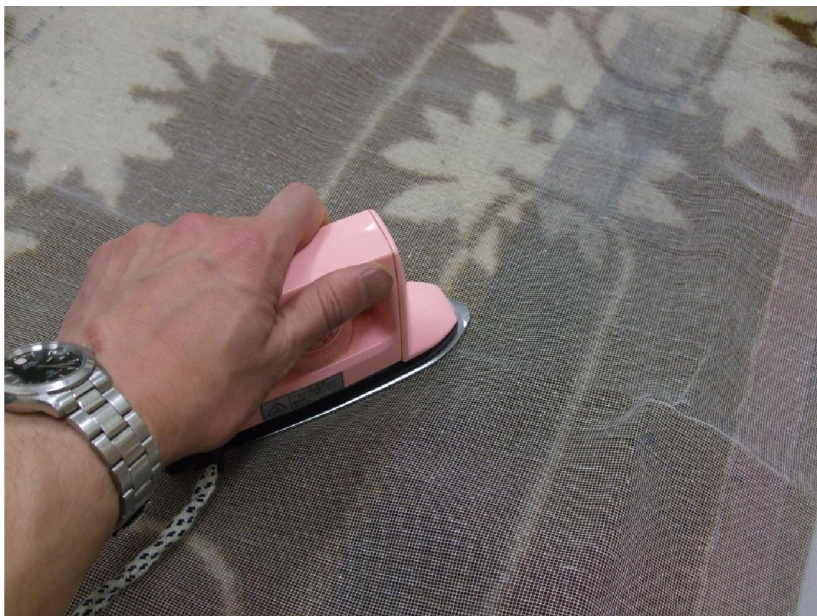
- Ⅳ. 麻紙を貼る部分にのみ、下塗りとしてアクリル絵具を塗布した。ヤニ止めや紙自体の発色を良くすることを考えて施した。



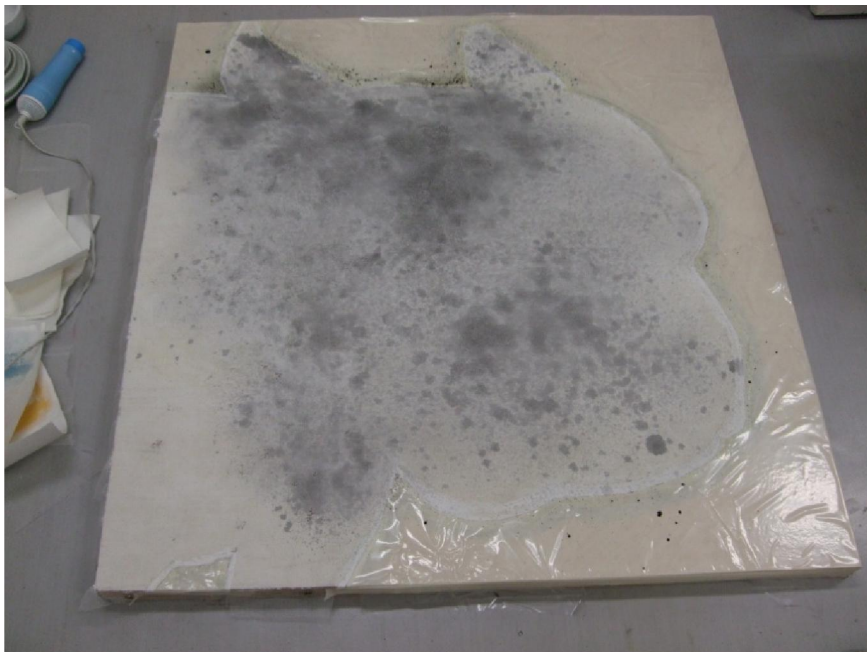
- V. 余白の形に裁断した麻紙を、パネルに直接貼り込む。正確に余白の形に裁断するよりも多少大きめに犬の輪郭の内側に紙が入り込むように裁断した。本作では輪郭に余韻を与えられないかと考え、下塗りの段階で輪郭に沿って黒のグラデーションを施した。



- VI. 寒冷紗のシワを伸ばす。きれいに丸めた状態で保管しなければ折目が残ってしまい貼り込む際にそこだけ筋になったり浮いてしまったりする恐れがある。本作で使用する寒冷紗はレーヨン素材であるため熱を加えても問題は無いが、素材によっては熱を加えると変化するものがあるため注意が必要。



- VII. ジェツソに珪砂、メディウム、膠液等を混ぜた接着剤を使用し寒冷紗を固定する。寒冷紗をパネルに貼り込むと同時に、珪砂により寒冷紗の網目の粗さを緩和する。本作ではジェツソ：珪砂=1：1の目安で網目を緩和した。図は余白の紙を汚さないようマスキングを施している。



- VIII. 着色。本作では寒冷紗の風合いと紙の風合いをはっきりと分けるため、落水紙を貼る部分を、鼻の周りと耳の内側に限定した。また目には、質感を変化させるため薄美濃紙を貼り込んでいる。



- IX. 麻紙を服の形に裁断して貼り込む。紙の質感を損なわないように貼り込む前に裏彩色により着色を施している。また鼻の部分にのみ、方解末を盛り上げるように塗布した。(白い輪模様)



- X. 頭部に模様を描いていく。本作では頭部に模様を描くことやさわやかな色の服を着せることで、夏を表現できないかと考えて制作した。



XI. 完成。



《夏の気配》

(筆者作 2010年 S50号 寒冷紗・パネル・麻紙・岩絵具・水干絵具)